

カンボジア：地域の人たち自身が母子保健活動を実践

PHJはカンボジア支援事業の一つとして2011年7月より2014年6月までコンポントム州で「母子保健改善に向けた健康な村づくり事業」を行っています。この事業は村人による母子保健向上推進に焦点を置き、緊急搬送手段の確保も含まれます。

カンボジア事業を実施する上で、疑問を常に自分に投げかけています。地域の人たち自身が母子保健活動を実践するためには何が必要なのだろうか？と。

例えば、妊婦・産後健診推進のためのコミュニティケアワーカー育成では、対象の10村からケアワーカーとなる人を選出するところから始まりました。“地域で認められ活躍できる人材”を村人に選んでもらうことにしました。

その選出が、これまた村人らしい方法でした。私たちは、ある程度の保健知識を備えた保健ボランティアから選出することを考えていました。その方が育成しやすいからです。ところが村人は違う選び方をしました。

まず村から候補者（保健ボランティアを含む）数名が選ばれ、投票形式で各村人の票を募りました。日本のように普通に投票用紙に書き込む、とすると読み書きが出来ない多くの人にとっては不利となります。村が行った投票方法とは、“葉っぱ”によるものでした。

マンゴーやバナナなどの葉っぱなら、村人はどれがどの葉っぱであるか識別できます。各候補者にそれぞれ違う種類の葉っぱを持ってもらい“マンゴーの葉っぱを持ってるAさんに投票したい人は、マンゴーの葉っぱを投票箱に入れて下さい”という様子です。

そして“積極的に人気がある”候補者に票が集中し、評判の良い人が選ばれました。結果、2/3以上の既存保健ボランティアは落選、フレッシュなコミュニティケアワーカー30名が誕生したのです。

こうして地域の人によって認められたケアワーカーが選出されました。すでに信頼関係があるケアワーカーからならアドバイスも受け入れやすく、保健センターへ行く機会がわからなかった村人も健診に行けるようになるのではと思われまます。これで地域の人たちが母子保健活動を実践できることが一つ増えると期待しています。

カンボジア事務所所長代行 久米



それぞれの葉っぱを持つ候補者



集まった葉っぱを数えているところ

巻頭言 / 復興から新しいものを



PHJ 理事
川上 潤
GEヘルスケア・ジャパン株式会社
代表取締役社長兼CEO

早いもので東日本大震災の発生から1年以上の月日が経ちました。復興の上で医療インフラの再構築は極めて大きな課題です。「それまであったものの復興ではなく、新しいものを創る」…その進捗のスピードに、“言うは易し、行うは難し”の典型を見る思いはありますが、挫けてはいけなないと私自身胆に銘じています。

今回の震災にあたっては、いかに被災地の現実を実効性ある支援ができるかを真剣に考えました。単にお金を出すだけでは被災地の現実の問題をあまり解決しないこと、また、お金が一過的に消費されてしまい、長期に渡って被災地に対してリターンをもたらす「プロジェクト」にならないことに大きな非効率を感じていました。そこでGEではチームを組んで被災地へのキャラバンを行い、現地の医療ニーズの徹底的な理解に努めました。

その結果、仮設診療所ができてもしそこに来ることのできない多くの老人の方に対する医療ニーズが大きいということが分かりました。それらの理解に基き、我々は4輪駆動の軽自動車に赤色信号灯を付け緊急時の医師の移動を可能にすると同時に、小型の超音波診断装置等の持ち運び可能な医療機器を搭載したドクター・カーというコンセプトを作り、関係各機関や地方自治体の協力のもと、GEの社会福祉事業団体であるGEファンデーションが被災三県の地方自治体にこのドクター・カー「めんこい」を計11台寄贈させて頂きました。「めんこい」は現在、被災地でフル回転の活躍をしていると聞いています。また、高齢社会における医療の提供のされ方のひとつのヒントになり得るものとしてその発展形にも期待がかかります。

PHJでも今回の震災にあたっては、これまでの優れた活動が多方面から評価されて様々な団体からの被災地への寄付の受け皿となり、実効性のある援助が実施できていることは大変素晴らしいことだと思います。

これらひとつひとつの地道な取り組みの積み上げが震災からの復興を促し、同時に未来に向けた「新たなもの」を創ってゆくきっかけになってゆくことを願ってやみません。

インドネシア—栄養改善活動と竜巻被害

栄養改善活動：2004年から幼児の栄養状態の改善にさまざまな取組をしてきました。しかし、栄養問題の根底にある課題として「貧困」「インフラ整備の遅れ」「流通」など、PHJが直接解決することは不可能な要因があります。PHJとして何か対応できる方法はないかと模索した結論として、自給自足体系である「一村一栄養菜園」開発・普及活動にたどりつきました。菜園用の土地は、「購入」するのではなく、村で使用されていない「空地・荒野」を地主さんの許可を得て利用しています。

2011年9月から活動を開始し、耕作・垣根作成・種まきなどのプロセスを経て、12月ころから収穫が始まりました。主に栽培されている野菜は、「空心菜・ナス・インドネシアほうれん草・とう



野菜を配給しました

もろこし」などです。予想以上の出来・収穫高で、収穫された野菜などは栄養不良児の家庭や妊婦さんに配給されています。また、PHJの活

動で開発された「郷土栄養メニュー紹介活動」の調理実習でも獲れたての野菜が活用されています。

竜巻被害：PHJが5軒目の診療所 (Poskesdes) 建設支援を行っているテンクラック村で、1月29日昼頃、竜巻が発生し、57家屋が全壊もしくはほぼ全壊となり357名が避難生活を強いられました。また、倒れた木の犠牲となり幼児1名が死亡しました。PHJは日常生活用品 (毛布・石鹸など)



竜巻で全壊した住居など



支援物資を被災者に渡しました

とパンなどを緊急支援として被災者に渡しました。避難所での炊出しのために、各村も栄養菜園から野菜などを提供し、被災者から喜ばれました。

インドネシア事務所所長 伊藤

タイ—チェンマイ県保健局とHIV/AIDS予防教育共同事業がスタート

PHJタイでは、10年以上に渡り、チェンマイ県内の大学生・中高生を対象にHIV/AIDS予防教育を実施しています。この度、長年の活動成果が地元のチェンマイ県保健局に認められ、今年度から保健局からも資金提供を受け、活動を行っています。



開所式の様子



コンドームボックス

その活動の1つをご紹介します。全1年生にHIV/AIDS予防教育を行っているチェンマイ体育教育大学では、新たな試みとして、コンドームボックスを大学内5箇所に設置しました。これらは学生ピアリーダーから出たアイディアで、「自分とパ

ートナーとの愛に責任を」をコンセプトに、この箱と、その隣に寄付箱を置いています。HIV感染予防への関心を高め、避妊具を手にする環境を整備することで、2,000名の大学生のHIV感染予防への効果が期待されます。

世界エイズデーの昨年12月1日には、大学学長、県副知事、県保健局職員、ピアリーダーを含む大学生、PHJ職員など260名参加の下、これらコンドームボックス活動の開所式を行いました。ジョンラック学長からは「この活動は、HIV感染予防や望まない妊娠を回避するなど、学生たちが自らを守るために有効なものです。PHJとはこのプログラムの実施など良い関係を築けており、感謝しています」とのコメントを頂いています。大学内に避妊具を置くというのは、チェンマイ県内の大学でも初めての試みということで、県保健局からも注目されています。今後の行方が楽しみです。

タイ事務所 HIV/AIDS予防教育
プロジェクト・マネージャー ジョイ

「東日本大震災」復興支援状況

東日本大震災から一年が経ちましたが被災地復興はなかなか思うように進んでいないようで、道路の脇にはがれきの山が多くみられます。PHJは発生当初から全日本病院協会（全日病）と連携を取りながら気仙沼、石巻を中心に支援活動を続けています。昨年9月、気仙沼市医師会にご協力いただき20の民間医療機関にニーズ調査を行い、12月に第一次支援として、医療機器約1800万円を地元ディーラーから調達し納入しました。また子供医療支援としてホテル業のヒルトン・ワールドワイドの慈善団体から医学書や待合室ソファ等をPHJが仲介し、全壊して安全な場所で開業した佐々木小児科医院へ寄贈しました。

什器や事務用機器が津波で流されたり泥を被ったりして使用できなくなった医療機関からは、多くの支援依頼がありました。これには欧州ビジネス協会からのご紹介によるエリクソン・ジャパン様からの寄付で4トン車7台分の什器類を被災地医院へ運びました。



佐々木小児科に寄贈された医学書とソファ

一方、ダンヒル社からは多額のご支援のほかに、日本代表サッカーチームが「勝負服」を着て描かれたポスター200枚を寄贈していただき、

PHJ作成カレンダー400部と一緒に気仙沼市の行政機関、学校、諸施設等にお配りしたところ、生徒や児童たちに大変喜ばれ、沢山の感謝のお手紙をいただきました。



鹿折小学校に寄贈したポスターとカレンダー

PHJはこれまでに10回被災地に足を運んでいます。支援している民間クリニックの多くが津波で病院、医師の自宅までも大きな被害を受けましたが、院長先生や看護師さんたちはいつも明るく患者に接し、懸命に診療活動を続けておられる姿には訪問する度に心を打たれ、支援活動にも力が入ります。

PHJはこれからも現地ニーズを的確に把握し、スピーディーに継続した支援活動を行います。引き続き皆様の温かいご支援をお願いします。

2011年3月15日から12月31日までの募金の報告は以下の通りです。

| | |
|----------------------|----------|
| 収入：個人・団体からの現金寄付 | 5,647万円 |
| 医療機器・事務機などの物資 | 16,592万円 |
| 支出：医師派遣費・医療機器調達費・活動費 | 3,903万円 |
| 医療機器・事務機などの物資 | 16,592万円 |
| 残額：復興支援として | 1,744万円 |

東京事務所 横尾

五月女理事



Vol.6 米国大統領選挙/象さん・ロバさん百年戦争



今年アメリカ大統領選挙の行われる年であり、本選挙は11月の第一月曜日の次の火曜日に行われる。目下共和党では候補者をふるいにかける予備選挙、党員集会が各州で行われている。現職民主党のオバマ大統領は再選を目指しているのに対して共和党は複数の候補がしのぎを削っている。そして今年オリンピックの年、うるう年でもある。この3つは常に一緒であり、一つが分かればあと二つはすぐ分かる。

ところで民主・共和両党にはそれぞれ応援する動物がいる。民主党がロバ、共和党は象である。1870年代の週刊誌ハーパーズ・ウィークリー*の風刺漫画で両党が動物にたとえられて描かれたのがきっかけで、党のシンボルマークになった。ロバは“家庭的な誠実さ”、象は“知識と感銘を与える力”を意味すると云う。

世の中には人間関係を動物の関係で表現することがよくおこなわれる。例えばあの人とこの人は“犬猿の仲”だ、などと。本当に犬と猿は仲が悪いのか。昔、戦国時代に四国に「土佐の国」と「伊予

の国」があり、よく領土争いをしていただと云う。土佐犬と伊予猿が有名で、両国関係を世間の人はこれを“犬猿の仲”と云ったそうである。人間同士が争っていたのであり、本当は犬と猿は仲よしだったのである。

同じように、民主・共和両党の人間たちは百年にも亘り選挙戦で争っていても、ロバと象はきつと仲よしであるに違いない。

アメリカ大統領が誰になるかは、米国民はもとより世界の人々の生活にも影響を与えるくらい大きな存在である。アメリカのみならずいずれの国のリーダーたちも、象さんロバさんのように、“他人を思いやり感銘を与える誠実な人物”であってほしいものである。

注：Harper's Weekly Magazine



五月女光弘（さおとめみつひろ）
外務省初代NGO担当大使、元特命全権大使、元早稲田大・聖心女子大等兼任講師、文藝春秋ベストエッセイストの一人、著書多数、PHJ理事等。

会員のひろば

「タイ・チェンマイの里子に会ってきました」 入江淳子 (HOPE パートナー会員)

1月23日から主人の同期会(60会)がカンボジアに建てた小学校の子供達に会いに行きました。帰り、初めてタイを観光することになりました。

HOPE パートナー会員になって10余年チェンマイの病気の子どもを支援しています。60会でも3名の方がパートナー会員です。子供の近況はPHJから写真とお知らせを頂いておりますが、いつも心の中で支援の子どもに「会いたい」と願っておりました。

小木曾様ご夫妻と我が夫婦の4人は、観光をせず、里子のいるチェンマイまで行き、4人の子供に会ってきました。到着した27日、最初の家庭訪問はチェンマイから車で片道3時間弱の田舎にお住まいの筋ジストロフィーのウェブ君9歳です。

自宅で布団を敷き、背中には大きなクマのぬいぐるみと座布団を当て、座ってテレビを観ていました。首が坐らず身体がぐらぐら、その度に父親が掛りきりです。PHJタイの担当者は3か月ごとに訪ねていますが、生活が苦しく見た限りでは、もう少しPHJが積極的な「家庭内での療養方法、せめて生活費支援だけでもやって欲しい」との思いを抱きました。あまりにも悲惨な状況に私達4人はショックを隠せませんでした。

翌朝、私の里子、気管支喘息のナング君14歳の自宅を訪問しました、写真で会っていたので、懐かしさと愛おしさで思わず手を握ってしまいました。月1度は病院診察、発作が起きた時はすぐ受診できるそうです。

あと2人のお子さんは宿泊ホテルのロビーまで来て頂き、ご家族様と共にお逢いしました。パンさん(女子19歳)は小木曾さんの里子さんです、心臓疾患で手術をして、お逢いした時はすっかり素敵な女性に！今は月1回病院へ行っています。

もう1人はヌーンちゃん(女子3歳)出産時の後遺症で左手全体に神経が行かず、今は毎月1回のリハビリで握力が少し出てきたようです。

どちらのお母様も今この様に子供と新しい人生を歩めることは皆様のお陰と感謝しておりました。

私はお金だけの参加ではなく、いつか自分の里子に会ってその状況を眼で確かめたいと願っておりました。夢がかない現実にお逢い出来たこと本当に嬉しく思っています。PHJ東京・タイ事務所の方々にはお世話になりました。感謝しております。



ホテルで訪問した里子とその家族、PHJスタッフたちと。筆者は前列右端

第3回スタディツアー報告

3月11日から18日 参加者10名(学生9名、会社員1名)とPHJ石関を加え、タイとカンボジアを訪ねるスタディツアーを実施しました。このツアーの特徴は、両国の都市と農村の暮らしや医療現場を見学し比較できることです。参加者によるインタビューやプレゼンテーションなどを盛り込み、密度の濃い8日間を過ごしました。詳しくは7月号に掲載します。



カンボジアの村でのインタビュー

メッセージ de メッセに出席

2月19日武蔵野市の支援を得て活動している19団体が参加して、武蔵境にある武蔵野プレースで展示会がありました。ピープルズ・ホープ・ジャパンは武蔵野市の一部支援を得て「アジアのおはなしカレンダー2012」を作成したこともあり、このメッセに参加して事業活動の紹介を行いました。



カンボジア・タイ洪水募金の報告

昨年10月25日に開始した募金にたくさんの個人、法人からご寄付を頂きました。2012年2月末で250万円のご寄付を頂き、目標を達成し募金を終了しました。

カンボジアではコンポントム州の被災者向けに衛生教育を行い、5704世帯に衛生グッズ(石鹸2個、タオル2枚、台所用洗剤1本、台所用たわし2個、ゴミ袋3枚、皮膚用軟膏1本)を配布し、皆様から喜んで頂きました。

タイでは活動地域のチェンマイは被災は免れましたがバンコク、アユタヤなどの被災者向けにチェンマイ保健局と協同でパイオ簡易トイレ211個、Tシャツ150枚、バンコクYMCAを通じて子供用オムツ、ミルクなどのリリーフセット100個)を寄贈し、感謝の言葉を頂きました。御協力ありがとうございました。



カンボジアでの衛生教育と配布した衛生グッズ

アジアのおはなしカレンダー2012 募金の報告

昨年9月20日に募金を開始し、皆様の暖かいご支援と協力により2月末までに合計372万円が集まりました。日本、タイ、カンボジア、インドネシアの子供達によるおとぎ話の絵を集めたカレンダーは楽しくてかわいいと好評を頂きました。また東日本大震災の復興支援として気仙沼市の公的施設や小・中学校に400部を寄贈して喜ばれました。

頂いた募金はインドネシア、カンボジア、タイでの母子保健、助産師トレーニング、感染症予防教育などの活動や、東日本大震災などの災害支援に使わせていただきます。御協力に感謝いたします。



カレンダーの絵を描く武蔵野市の子ども